

「IX」岩殿寺・名越切通しコース

平成21年2月4日(木) (集合JR逗子駅西口 改札前10時厳守)

行程；JR逗子駅西口→岩殿寺→法性寺→大切岸→名越切通→曼陀羅堂跡→日蓮乞い水→銚子の井→長勝寺→安国論寺→妙法寺→安養院→常栄寺→(妙本寺通過)→夷橋→本覚寺→大功寺→鎌倉駅着。

- 1・岩殿寺(曹洞宗・海雲山・本尊十一面観世音菩薩行基作・寺宝釈迦如来、不動明王、毘沙門天王、韋駄天各木像御朱印天正19年徳川公下付、縁起寛文享保の2作)
奈良長谷寺の開山願徳道が下向の途次、東南の空に奇瑞(キズイ)を見、その地に行き着いたのが当寺の場所と伝う。数年後、行基が同じ奇瑞を見て本尊安置した。徳道、行基を開基とした。文豪蘆花が大正十一年観音堂前に池を寄進した。小説家泉鏡花の句碑。
- 2・法性寺(おッショウ・日蓮宗・猿島山・祖師堂、日蓮上人・籠居洞穴日朗墓・裏に猿島人工の崖切岸3, 4段垂直800m)
文応元年(1260)、日蓮上人の松葉ヶ谷草庵焼き打ちされ、此の山の洞穴に身を隠し、3匹の白猿が上人に食物を供して救ったという。此は山王権現の導きと弟子の日朗に寺の建立を命じたが、果たせず、亡くなったので弟子郎慶が元応2年(1320)に堂宇を建立したと言う。開基は郎慶。
- 3・名越切通し(七切り通し、国指定史跡・鎌倉～三浦・大和武尊、東夷=蝦夷制圧に通った古東海道) 鎌倉七口・七切通し；名越坂・朝比奈坂・巨福呂坂・化粧坂・扇が谷坂・極楽寺坂・大仏坂。
鎌倉七切通しの中でも最も重要な軍事的拠点として重要視され、かつて「難越カシ」と言う地名からわかる様に難所であった所で、今尚当時の面影が残る切通し。伝承によれば日蓮が安房から横須賀米ヶ浜に上陸し、葉山を経て名越を越え鎌倉に来たと伝えられる。大空峒(材木とり)・小空峒(コ木とり)。《但し切り通し急斜面あり、路面不良の時は名越隧道を迂回します。》
- 4・日蓮乞い水(鎌倉五名水；日蓮乞水・銭洗水・金龍水・不老水・梶原太刀洗水)
建長5年(1253)日蓮が鎌倉に出てきたとき、急に水が飲みたくなり、杖で地を突き刺すと、そこから湧き出たと言われる。
- 5・銚子の井(鎌倉十井、別名石の井、側面、蓋が石・井戸の全体の形が長い柄の付いた銚子に似る様子から云われる)
鎌倉十井；銚子、底脱の井、鉄の井、星の井、棟立の井、瓶の井、泉の井、扇の井、六角の井、甘露。鎌倉は水の質が余り良くなくその中でも最も美味しく、又伝説が伝わる十の井戸を鎌倉十井と言う。
- 6・長勝寺(日蓮宗・石井山、長勝寺・荒行11/12日～2/10日千葉中山法華寺百日修業後、2月12日朝長勝寺に着き水垢離をとって本堂で祈念)
此の地は日蓮松葉ヶ谷の法難跡と伝えられる。当地領主石井長勝が日蓮に帰依し、1263年日蓮が伊豆伊東の配所から鎌倉に戻ってきた時、自分の邸宅に小庵を建て日蓮に寄進した本圀寺(日蓮宗最初の寺院)と言われる。本圀寺が室町初期京都に移建して廃寺になっていたのを日静が復興し山号と寺号を開祖の石井長勝の名にちなんで石井山長勝寺と付けたと伝える。室町期の唐様建築の祖師堂(県重文)で日蓮上人像安置、帝釈堂に帝釈天が奉られている。これは日蓮の松葉ヶ谷法難時、帝釈天の使いの白猿に日蓮が救われたことから、帝釈天出現の霊場として安置されたと言う。銅像の日蓮上人は高村光雲(高村光太郎の父)作。東郷元帥の発起によるもので東京洗足池から移されたもの。上野の西郷隆盛・皇居前楠木正成像。
国指定文化財等；木造漆塗懸盤3枚(市指定)。
- 7・安国論寺(日蓮宗・拝観料100円)
此処も松葉ヶ谷日蓮法難の跡と言われ、又日蓮が1260年(文応元)に北条時頼に建白した「立正安国論」を執筆した所でもあると伝えられる。山門左側に芝増上寺徳川將軍家墓地から移された石灯籠が並んでいる。奥の岩屋には御法窟と言われ、「立正安国論」を書いている姿をかたどった日蓮上人像が安置されている。日蓮が毎日富士山に向かって法華経を読誦したと言われる富士見台、法難の時避難したと言われる南面窟、日朗上人が茶毘に付されたと言う日朗御茶毘所がある。
花便り；春「シャガ、カイドウ、フジ・秋」サザンカ。

8・妙法寺（日蓮宗・別名苔寺境内の苔の石段が美しい・土日のみ公開・拝観300円・）

日蓮が鎌倉で法華経を広める拠点とした此の草庵は日蓮に反感を持っていた鎌倉の僧侶や武士達によって1260年に焼き打ちされた。日蓮がこの草庵の跡に法華堂を建てたと言われ、此が本圀寺のもとで、室町時代に京都に移されたあと、1357（延文2）日叡（エイ）が父の霊を弔うため、寺を再興したのが妙法寺の起こりと言われる。本堂は江戸後期熊本の大名家細川家が建てたと伝えられる。「松葉谷御小菴（ゴショウアン）霊跡」石碑・宝篋印塔（伝護良親王の墓）・汾陽昌子句碑・星野立子句碑・扇塚。

花便り；春」ジンチョウゲ、サクラ、シャガ・夏」シャガ、フヨウ・冬」スイセン。

国指定文化財；絹本着色細川耆姫像（市指定国宝館）。

歳時記；5／5 清正公祭。

星野立子；高浜虚子の次女で、明治36年東京生、鎌倉高等女学校（現鎌倉女学院）を経て、大正13年東京女子大学高等部卒、翌14年星野天知の息子の吉人と結婚、昭和7年東京青山から鎌倉由比ヶ浜に移住し、同11年笹目町に転居、同59年3月80才で没。俳句は大正15年父虚子の手引きで作り始め、終始一貫してその指導、援助を受けた。「ホトトギス婦人句会」で頭角を現し、昭和10年中村汀女（テイジョ）とともに女流の双へきと言われ、後に三橋鷹女、坂本多加子を加えた「四T」と称された。昭和5年女流、俳誌「玉藩」を創刊、主宰。同34年父の跡を継いで「朝日俳壇」の選者を続けた。著書「立子句集」・「鎌倉」・「笹目」・「春雨」・「句日記」・「玉藩俳話」・「俳小屋」・「1日1句」等。「美しき苔石段に春惜しむ」立子（法華堂への石段傍ら）。

9・大宝寺（日蓮宗・多福山）と佐竹屋敷跡（新羅三郎義光の子孫鎌倉時代常陸＝茨城、佐竹秀義以来佐竹氏屋敷跡）

室町時代、応永6（1399）佐竹義盛出家、屋敷のそばに寺を建て多福寺と名付けたと言う。それが大宝寺の前身、その後廃寺、文安元年（1444）日出上人が再興、大宝寺に改めたと伝う。本尊、三宝祖師と日蓮上人坐像、日出上人と新羅三郎義光の像、大黒天、鬼子母神像祀られている。

10・安養院（浄土宗・鎌倉三十三観音第3番・鎌倉二十四地蔵24番・拝観料100円）

北条政子が夫源頼朝の菩提を弔うために長谷の笹目にあった長楽寺を此の地に移したのが前身という。その後政子の法名を取って安養院と改名した。本尊本堂正面、阿弥陀如来坐像・後ろに良縁、出世千手観音立像安置5月のツツジが実に素晴らしい。

国指定文化財等；北条政子像・宝篋印塔（尊観がン供養塔・重文・名石像物）・日限地蔵。

○上行寺（日蓮宗・法久山・本尊、三宝祖師・本堂軒の表欄間の龍の彫り物、熊本細川家作）

正和2年（1313）創建、現本堂明治19年妙法寺の法華堂を移築と伝う。墓地には万延元年（1860）桜田門外井伊大老を襲撃した水戸浪士広木松之助墓・瘡守（かすり・諸病一切）

稲荷堂・鬼子母神薬師堂。

○別願寺（真言宗→時宗・稲荷山・室町時代鎌倉公方代々の菩提寺・足利氏満、満兼、持氏の寄進状等十通古文書）

○八雲神社（祭神、須左之男命・稲田比売命・八王子命・大町鎮守・祭礼、以前は7月7日から14日・神輿4基）

11・常栄寺（ばたもち寺・裏山、頼朝が由比ヶ浜を遠望するための栈敷があった）

日蓮上人が囚われの身となり、龍ノ口の刑場に送られる途中。日蓮の化身をあんじた栈敷尼・妙常日栄が、仏の加護を願うゴマのばた餅を差し出すと、願いが通じたのか日蓮は難を逃れ、助かる。この故事にあやかり、慶長11年（1606）日詔上人が栈敷尼の名にちなんで寺を建てた。塚本柳斎歌碑。

歳時記；8／10 四万六千日詣り・9／11、12 ばた餅供養。

名石物；北条尊観（北条朝時次男）。

塚本柳斎；本名塚本松之助、明治12年千葉県生、小学校時代成績優秀、学年を飛ばして進級。

卒業した。その後並木栗水に和漢学を師事し、東京の哲学館（現東洋大学）に入り、二松学舎に転じて卒業。大正9年結婚雑司ヶ谷に住み、昭和14年鎌倉由比ヶ浜に移住41年88才没、妙本寺に墓。著書「日雅上人逸事」（漢文）・「闡幽小伝」（百人の人物小伝、漢文）等。「これやこの法難の祖師に萩のもちささげし尼がすみにし所」柳斎・妻梅香書（本堂手前梅古木傍ら）。

○教恩寺（時宗・本尊、阿弥陀如来鎌倉時代伝運慶作・山門欄間十六羅漢木彫・開山知阿上人小田原北条氏康建立）

12・妙本寺（日蓮宗）昨年散策にて通過

日郎を開山として文応元年（1260）年創建。妙本寺は比企能員（ヨシズ）邸の屋敷で、比

企一族が、北条氏を中心とする大軍に攻められ、滅ぼされた地でもある。その後、比企大学三郎能本が日蓮と比企一族の霊を弔うためお堂を建てたのが始まりと言う。祖師堂には日蓮の生前の姿をうつした三体の像の一つと言われる座像が安置されている。蛇苦止（ジャクシ）堂の蛇苦止明神は比企の乱で悲劇の入水の若狭（ワサ・能員の娘）の局の霊が北条正宗の娘にとりついて苦しめたのを慰めまつた。比企一族の墓・一幡（イツン・頼家嫡男の墓）袖塚・長谷川海太郎（林不忘・谷譲治・牧逸馬3筆名持）墓・仙覚万葉集研究跡碑（鎌倉時代和学者詳細不明）・竹御所跡・田辺松坡漢詩碑・比企が谷蛇形本尊（非公開・霊宝殿）蛇形（ジャギョウ）の井戸。

国指定文化財等；雲版。

歳時記；5／1 蛇苦止明神大祭。

花便り；春「サクラ、カイドウ、シャガ・夏」ノウゼンカズラ・秋「モミジ。

著名人；上杉彦之丞の墓（日露戦争明治、37～38年、第2艦隊司令長官）。

田辺松坡；文久2年（1862）江戸深川生、本名田辺新之助、松坡又は菱花山と号した。教育者、漢詩人として知られ、逗子開成中学校、鎌倉女学校（現鎌倉女学院）を創建し、この地方の教育振興に貢献した。校長として40年間終生を女子教育に投じ、昭和19年2月永眠（詩碑、祖師堂前海棠右手前）。

- 13・本覚寺「日蓮宗東本願寺・鎌倉七福神夷・夷橋（鎌倉十橋）」鎌倉十橋；十王堂橋、山ノ内・勝の橋寿福寺門前・裁許橋、今小路・琵琶橋、下馬四つ角・逆川橋、大町・乱橋、材木座・夷堂橋本覚寺門前・筋違橋、雪の下・歌の橋、金沢街道・針摺橋、極楽寺。

一乗日出を開山とし、永享8年（1436）創建。足利持氏が鎌倉の夷堂があった場所に寺を建て日出に寄進した寺院。二代目住職が日朝上人であったことから「日朝さま」と親しまれている。

- 14・大功寺

（おめんさま・産女霊神、安産・頼朝戦評所碑）



第46回行路案内図

- 113 -